

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4171100078
法人名	社会福祉法人 久栄会
事業所名	グループホーム さざんか園
訪問調査日	平成19年11月22日
評価確定日	平成20年1月10日
評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4171100078		
法人名	社会福祉法人 久栄会		
事業所名	グループホーム さざんか園		
所在地	佐賀県神埼郡吉野ヶ里町大曲3475-1 (電話) 0952-53-2879		
評価機関名	佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成19年11月22日	評価確定日	平成20年1月10日

【情報提供票より】(平成19年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 9 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 5 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 8.7 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋、平屋、耐火構造 造り 1階建ての1階部分
------	----------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	14,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要(11月22日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	2 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 85.8 歳	最低	75 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	肥前精神医療センター、松本医院、西谷クリニック、塚本歯科医院
---------	--------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは吉野ヶ里歴史公園に程近いのどかな田園地帯に位置し、傍には、同一法人のデイサービスセンターが隣接しており、それぞれの機能を活かした連携が図られている。施設長(管理者)は平成13年の開設時より、グループホームの運営は地域に密着したものであるべきことを念頭に置き、当初から、理念の中に「地域の一人としての暮らしを目指す」と盛り組み、入居者及び家族等の支援に取り組んできている。ホーム内は、家庭的な雰囲気作りの工夫や利用者の自立を促すための設えが随所に施されている。職員は、利用者の有する力が存分に発揮され、その人らしい暮らしとなるように支援している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	現状に甘んじることなくサービスの質の向上に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者や職員は自己評価及び外部評価の意義を理解し、全員で真摯に自己評価に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	ホームの行事や運営状況、課題等について協議をしている。なお、参加者からも多くの質疑や助言等が出され双方向的な会議になっている。参加者からの提案や助言については速やかに検討し、サービスの質の向上に活かしている。また、ホームの様子や行事の様子をビデオで紹介した事により、参加者の認知症高齢者への理解が深まっている。今回の外部評価結果についても報告する予定である。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会時に繰り返し声をかけたり、運営推進会議や家族会の折にも意見や苦情等を求めている。出された意見等については前向きに捉え運営に反映している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームの行事には地域の人達や保育園児を招き交流の機会としている。また、職員が地域の健康教室の講師を務めたり、民生委員等の集まりに参加し交流を図っている。しかし共に暮らす地域住民の一人としての地区活動への参加・協力には至っておらず、サービスの質の向上のためにも自治会に加入するなど、地域との連携が一層深まることを期待したい。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念には、平成13年の開設当時から、その人らしい生活の支援を目指すための内容と共に「地域の一員として暮らすことを目指す」という文言を盛り込んだものを掲げ、これまでも地域に根ざしたサービスに取り組んできている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の申し送り時に理念を唱和し、共有を図っている。また、管理者やホーム長は、折に触れ、理念の内容についても職員に話し、その実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの祭りに地域の人達を案内したり、節分や七夕会には保育園児を招いて交流している。また、職員が地域の健康教室で講師を務めたり、民生委員等の集まりに参加し交流を図っている。しかし、地域の一員として地区活動への参加・交流までには至っていない。	○	地域の一員として地区活動や交流等にも取り組み、地域との連携が一層深まることを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者や職員は自己評価及び外部評価の意義を理解し、全員で自己評価に取り組んでいる。現状に甘んじることなく真摯に自己評価を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には運営推進委員の積極的な参加が得られており、質疑や助言等も多く、双方向的な会議が行われている。また、日常の様子や行事の様様をビデオで紹介したことにより、委員の方々の認知症高齢者への理解も深まっている。外部評価の結果についても報告する事としている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の担当者とは気軽に相談できる関係にあり、運営推進会議以外にも行き来をし、サービスの向上のための連携を図っている。町主催の介護者教室では職員が講師を務めることもある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会も多く、暮らしぶりや健康状態については面会時に話したり、利用者の日常や表情が見える写真を載せた便りを発行し、家族にも喜ばれている。病院受診の前後には家族に電話をし報告している。なお、預り金の出納についても領収書等を添えて定期的に報告している。また、職員の異動時には家族会等で家族にも紹介している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議及び家族会の折に意見を求め苦情等も聴くようにしている。出された意見については前向きに捉え運営に反映している。なお、玄関には苦情箱を設置し利用を促している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の退職時には、併設の施設から馴染みの職員を異動したり、これまでの退職者を再雇用する等、利用者へのダメージを少なくするように工夫している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画により園内でも積極的に研修会を行っている。外部の研修会に参加後は、事業所内での勉強会で報告をし他の職員への周知を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームと合同の勉強会や相互訪問等を行い、サービスの質の向上に活かしている。積極的な同業者との交流も行われており、グループホーム全体のサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者の大半は、隣接するデイサービスの利用者であり、職員や入居者、雰囲気等にも馴染みがあり、安心した入居に繋がっている。なお、体験入所をとおして馴染んでもらうこともある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、日常的に、入居者との関わりの中に喜びや感動を実感している。また、職員は入居者から昔馴染みの名言や料理等を習うこともあり支えあう関係が築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴介助の時やゆっくりと向き合える時間に声をかけ思いの把握に努めている。なお、困難な場合には家族や昔馴染みの人から話を聞き、本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向を大切にし、かつ、アセスメントシートや職員の意見等を反映しながら本人本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画は3ヶ月毎に見直しを行い、現状に添った計画で支援している。見直し時には職員のみならず家族等も評価に参加されていることが記録からも確認できる。なお、状態に変化が生じた場合には、随時、速やかに見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診時は常に看護師が付き添っている。また、医療連携体制を活かし、点滴等の医療処置や終末期の入院の回避にも取り組んでいる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者は、それぞれの以前からのかかりつけ医を受診されており、病院とホームとも良好な関係が構築されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期にかかる看取りの指針が作成されており、家族に説明の上、意思確認も行われている。医療機関とも方針の共有ができており、これまでも4例の看取り介護がなされている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者を人生の先輩として敬っており、人格を尊重した言葉かけやさり気ない支援を行っている。個人情報の保護についても勉強会等で理解しており、地域に届けるホーム便りにも配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、本人のペースを尊重した生活支援に取り組んでいる。起床及び就寝の時間、食事の時間、昼間の活動、入浴時間等柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の希望を取り入れながら作成している。食事の準備や片付け等は利用者も一緒にされており、それぞれの力が発揮されている。なお、食事の時は職員も同じテーブルを囲み、同じ食事を食べながら楽しい雰囲気づくりに取り組んでいる。また、月に1回は近くのレストラン等へ出かけ外食を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には午後からの入浴としているが、本人の希望に合わせて柔軟に対応し、入浴を楽しめるように支援している。なお、入浴を拒否される場合には、時間をおいたり、隣接のデイサービスで入浴をしてもらう等工夫もみられる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人や家族、昔馴染みの人等から生活歴等を聞き支援に活かしている。新聞読みや俳句、歌、ドライブ、料理、盛り付け、食事の片付け、洗濯物干しやたたみ等を楽しみや役割として支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に、買物や散歩に出かけ心身の活性を図っている。時には、近所にある利用者の檀家寺のお墓参りに出かけることもある。なお、気候の良い時には、日当たりの良いデッキでお茶を楽しみ、外気浴や気分転換の機会としている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は、昼間は施錠されておらず自由に出入りができる。利用者の外出は職員の連携で見守り、外出希望時にはその意思に沿うように支援している。居室は掃き出し窓になっており、利用者は居室からも自由にデッキへ出ることが可能である。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、消防署の協力を得ながら避難や消火訓練を行ってはいるが、地域の人達の参加・協力を得るまでには至っていない。次回の訓練では、参加が得られるように運営推進会議で依頼をしている。	○	職員だけの誘導の限界を具体的に確認し地域の方々の、訓練への参加協力を積極的に依頼する等の取組みが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量はその都度把握し記録をしている。献立は栄養士のチェックを受けバランスに配慮したり、利用者の体調等によっては、食物の形状にも工夫をしている。なお、食欲不振の利用者にノンアルコールのビールを供し、食欲の回復にも繋がっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は家庭的な雰囲気が漂っており、温かい気持ちになる環境である。日当たりの良い、居間の一角の畳の間には掘ごたつがあり、また、居間や廊下の壁には季節を感じさせる手作りの飾りも見られる。なお、居間からは台所の様子がよく見渡せ、音や匂い、季節の野菜等が五感への刺激になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の理解のもとに利用者の好みや馴染みの物が持ち込まれている。仏壇や絵、書、家族の写真、椅子、時計、整理筆筒、花、置物等があり、居心地良い居室作りがなされている。		